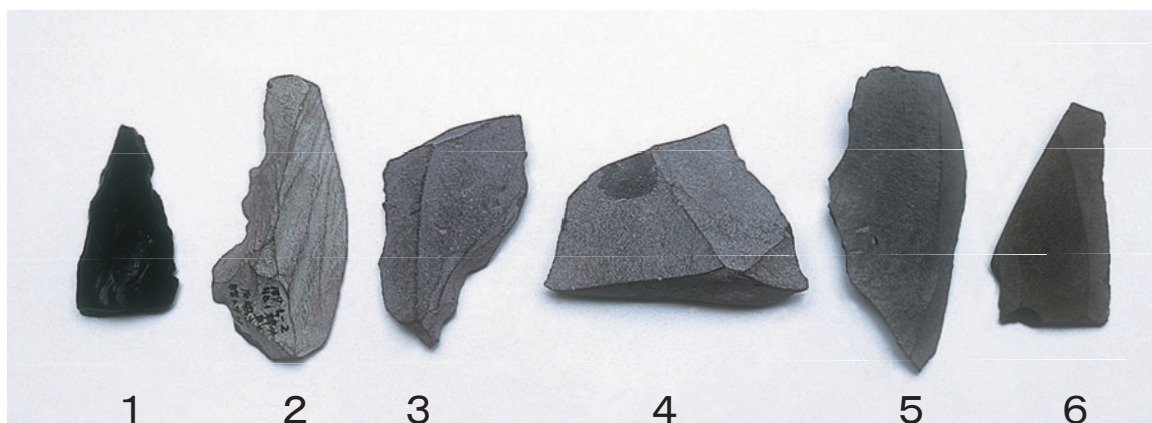


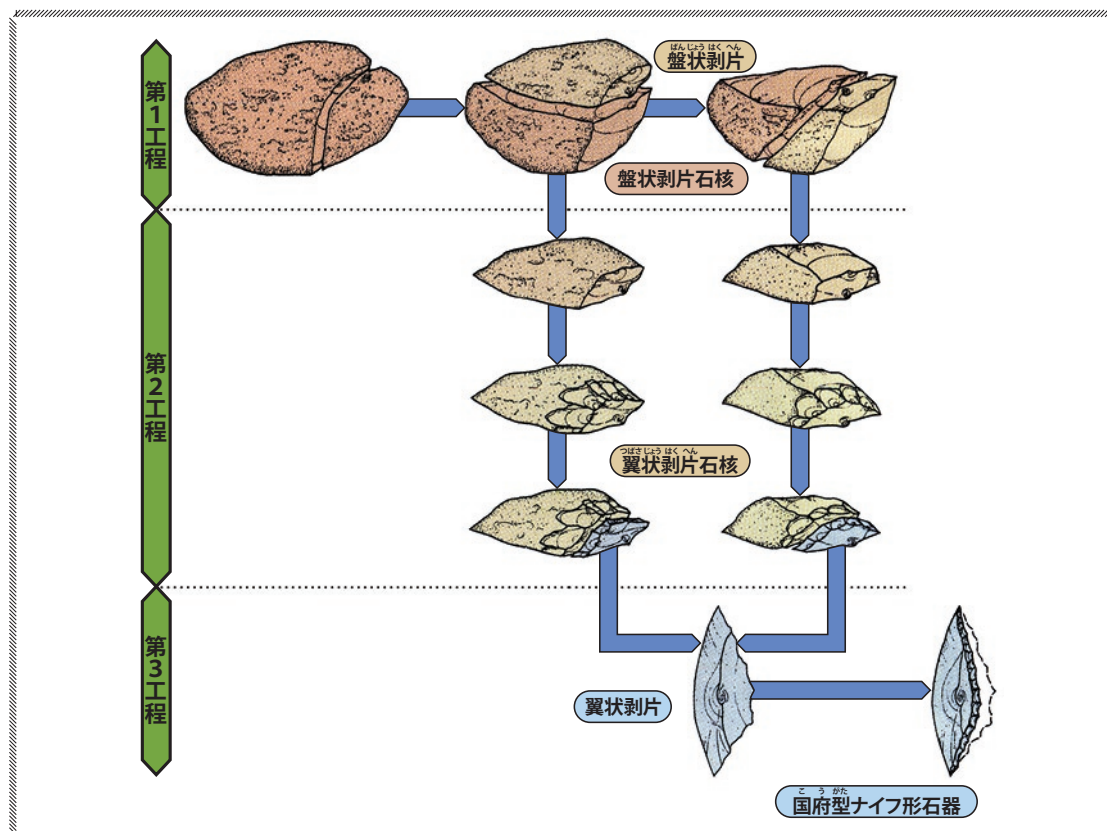
旧石器

市内各地出土 後期旧石器時代(約 25000 ~ 18000 年前)

陸地の三分の一が氷河におおわれ、大陸と地続きであった日本列島には約10万年前から人類が住み始め、奈良市内でも後期旧石器時代後半の打製石器が出土しています。二上山のサヌカイトを打ち割ってつくったナイフ形石器のほか、別所下ノ前遺跡(別所町)からは島根県隠岐島の黒曜石を使った角錐状石器も出土しており、この時期に人々の生活があったことがわかります。



- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 別所下ノ前遺跡出土 角錐状石器 | 2 法蓮町出土 ナイフ形石器 |
| 3 西大寺栄町出土 ナイフ形石器 | 4 大森町出土 翼状剥片石核 |
| 5 三条宮前町出土 翼状剥片 | 6 横領町出土 翼状剥片 |



翼状剥片・ナイフ形石器の作り方

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館常設展図録「大和の考古学」より